令和5年9月22日

学校法人秋草学園
秋草学園福祉教育専門学校
校長　野中 博史　様

秋草学園福祉教育専門学校
学校関係者評価委員会
会長　　倉部 陽司

令和4年度　学校関係者評価報告書

秋草学園福祉教育専門学校　学校関係者評価委員会は「令和4年度秋草学園福祉教育専門学校　自己点検・自己評価報告書」 に基づき、学校関係者による評価を実施しましたので報告いたします。

なお、学校関係者評価委員会は業界団体・関係施設の役職員、自治体職員、高等学校教員、卒業生、地域住民の代表等 6 名をもって構成しています。令和4年度は 2 回の会議を開催し、自己点検・自己評価報告書に基づいて、学校運営、教育活動等について下記のとおり評価を行いました。

記

1　総合評価

当校は地域に根付いた福祉教育専門学校として多数の介護人材を育成し、地域社会からの負託に応える教育をしている。令和4年度の国家試験合格率は前年度を若干下回ったものの、いぜん高い合格率を誇っており、地域の介護人材育成の中核機関となっていることに変わりはない。特に日本国籍者の合格率は100％であり、教育の成果として高く評価できる。しかしながら、今後留学生の増加も予想されることから、介護福祉の専門知識・技能の教育とともに日本語能力のさらなる向上に向けた教育的取り組みが必要である。

コロナ禍の影響が続く中で、学生募集に関しては昨年比若干下がったが、「学習成果」「学生支援」の項目は昨年に続き高い評価となっている。「財務」「法令遵守」「社会貢献・地域貢献」等の項目に関しては、財務改善の部分を除き前年と同様に高い評価となっており、地域の介護福祉士育成の役割を十分果たしている。

今後は、自己点検・自己評価報告書で提示された各種課題の解決に適宜取り組むとともに、コロナの5類引き下げに伴う留学生の受け入れの強化、入学者数の増加と経費の見直しによる財務改善策の実施等積極的な学校の改革・運営が求められる。

2　評価項目の達成状況及び課題

（1）教育理念・目標

＜達成状況及び課題＞

・学校の HP 等を通じて学校の理念・目的等の周知を行っているが、学校独自の教育理念を含めた特色が見えづらい。

・高等学校の先生に理解していただくような取組は十分とは言えず、検討のうえ速やかに取組を企画・実行する必要がある。

・将来の介護福祉士像を見据えて、学校の特色を打ち出していくことが必要である。

＜今後の具体的な取り組み等＞

・次代に対応した新しいカリキュラムの導入を検討する必要がある。

・始業式、終業式、授業の中で教育理念や目標などを教職員が学生に伝えることが大切である。

・ガイダンスや高校訪問の際に、教育理念や目標について理解してもらうことも重要である。

・学福連携プロジェクト参加法人の協力のもと、養成校の教育理念などそのメリットを内外に発信していくことが必要である。

（2）学校運営について

＜達成状況及び課題＞

・ワークライフバランスの取組が十分とは言えず、その実現に向けて仕事と育児・介護の両立を目指した支援策を打ち出す時代となっている。

・情報システム化が十分でなく、ペーパーでのやり取りが多い現状を改善する必要がある。

・各種機関からのメール通知文書をプリントアウトして回覧する方法は、ペーパーレスとは逆行している。早急に事務の効率化を検討する必要がある。

・今後、結婚・出産・育児を控えた若い職員が長く秋草学園とともに歩めるような体制づくりを検討していかねばならない

＜今後の具体的な取り組み等＞

・業務のアセスメントをしてどこが効率化できるか検討する必要がある。

・定期的な会議による学校運営をしていくことが望ましいい。

・事務と教務の連携による建設的合意形成を図ることが望ましい。

・情報システム化を一段と進める必要がある。

・職員の学習機会の提供と意識の向上に取り組むことが望ましい。

（3） 教育活動

＜達成状況及び課題＞

・アクティブラーニングを取り入れるための知識を習得させるのには時間がかかるが、学生に適した教授法を模索する必要がある。

・コロナ感染症下でカリキュラム編成委員会がうまく作動せず、外部情報や外部からの意見の収集が少なかったとみられるが、外部の意見をカリキュラム作りに生かすことも課題である。

・教員の研修計画については現在、埼玉県学事課、埼玉県専修学校各種学校協会、介護福祉士会、社会福祉会などが無料でオンライン開催している教育活動に関する研修会に参加している。

＜今後の具体的な取り組み等＞

・適宜、カリキュラム編成会議を行い、外部からの情報や意見を得てカリキュラム作りに生かすことが望ましい。

・受講生が理解しやすいカリキュラムツリーの作成を検討する必要がある。

・教員の研修については、今後、さらに積極的かつ計画的に研修に取り組むことも大切である。

（4） 学修成果

＜達成状況及び課題＞

・卒業生がどのように活躍しているか把握していない現状だが、それを把握して今後の学校教育及び学校運営に活かすことが課題である。
・留学生を含めた国家試験合格率の向上を図っていくことが重要である。
・就職率が高く、退学率も低くなっている今こそ、各種の積極策を検討していくべきである。
＜今後の具体的な取り組み等＞
・現在進めている手話や介護保険事務管理などの講座を今後も継続していくことが望ましいい。
・長期休暇中に赤十字などへの講習参加を検討してもいいのではないか。
・同窓会及び実習施設と連携・協力して、卒業生の活躍状況を把握することが望ましい。
・国家試験対策講座をさらに充実させるために講座内容を充実させることも大切である。

（5） 学生支援
＜達成状況及び課題＞
・就職支援等でマニュアル化していない部分があるが、今後検討することが望ましい。
・家計の面で厳しい学生が増えていると思われるが、退学や進学をあきらめないような積極的な支援が必要である。
・障害者支援施設などの就職先の情報が少ない
・進路や就職に関する支援体制をさらに強化する必要がある
＜今後の具体的な取り組み等＞
・学生支援、キャリア支援の質をさらに高める必要がある。
・今以上に高い卒業率、国家試験合格率を上げられるよう教育力を上げる必要がある。
・オープンキャンパスやガイダンスにおいて、わかりやすい奨学金の説明をすることも大切である。
・日頃から、学生と密な連絡がとれるような信頼関係を作ることが大切だ。
・学生支援のマニュアル化を進めることも重要である。
・教員個人の力量に頼らず、学校として組織的な学生支援体制を構築する必要がある。

（6） 教育環境
＜達成状況及び課題＞
・学生が主体的に学んだことを発表する機会があるとよい。
・福祉用具の拡充について、経年劣化が見受けられるため、計画的に対応する必要がある。
＜今後の具体的な取り組み等＞
・学習の成果としての発表の機会を増やしていくことが望まれる。
・福祉用具の拡充を図るよう検討することが望ましい。
・施設の安全管理を徹底する必要がある。

（7） 学生の受け入れ募集
＜達成状況及び課題＞
・ＳＮＳの活用ができていない現状を改善する必要がある。
・ＯＣへの参加人数を増やすことが重要である。

・留学生の受け入れを強化していく必要がある。
＜今後の具体的な取り組み等＞
・ＳＮＳの利用を検討することが大切である。
・学福連携等の活用でより多くの学生に興味を持ってもらえるような工夫を検討してほしい。
・学生募集に関しては、学校説明会やＨＰの活用をさらに充実・改善していく必要がある。

（8） 財務
＜達成状況及び課題＞
・コロナ化で財務状況が悪化しており、改善する必要がある。
＜今後の具体的な取り組み等＞
・効率的な予算の活用をすべきである。
・留学生の入学者も激減しているが、コロナ禍が落ち着いてきたので、留学生を１５名ぐらいは確保してほしい。

（9） 法令遵守
＜達成状況及び課題＞
・個人情報文書に関し同意書の記入などの整備がされていない。
・自己評価の結果をどう業務に生かしていくべきか検討すべきである。
・外部業者（委託契約先）に対して個人情報保護が徹底されていない。
＜今後の具体的な取り組み等＞
・個人情報の文書に関し、同意書の記入などの整備を図る必要がある。
・自己評価の結果をどう業務に生かすか検討することが望ましい。
・外部業者（委託契約先）に対して個人情報保護を徹底するような方策を検討すべきである。

（10） 社会貢献･地域貢献
＜達成状況及び課題＞
・コロナが落ち着いている状況を確認してボランティア活動をすすめる必要がある。
・学生たちが社会とつながる力、支える力の一助となる体験を増やすことが望ましい。
・公開講座などが未実施となっている。
・学生への意識付けを十分に行えていない場合がある。
＜今後の具体的な取り組み等＞
・ボランティアの紹介を積極的に行うように心がける必要がある。
・体験学習を積極的に取り入れて欲しい。
・学園祭などを通じて、柳瀬公民館や地域の高齢者、子供との関りを増やしてほしい。
・コロナの状況を見ながら、公開講座を実施することも検討すべきである。
・地域活動に参加するための事前指導を行うことも重要である。

(11)その他

「令和４年度　学校関係者評価委員会」では、その他として以下のような意見が委員より出されたことを付記しておく。

・生徒募集について、高等学校では教員に対する情報が多すぎて生徒にすべてを伝えきれてなく、実績があり信頼している学校へ進学させる傾向がある。

・施設の貸出を行っていると報告があったが、町内会にも声を掛けていただきたい。

・介護の仕事の良さ、魅力を伝えるにはどうすればよいのか。学校だけでなく施設現場でも魅力を伝えないといけないと考えている。

・学福連携プロジェクトと協力して、施設現場の話を聞きながら授業を行いアピールすると高校生への訴求力があると思われる。

学校関係者評価委員会委員（五十音順）

石塚　清和　　介護老人保健施設 ケアステーション所沢管理部長
内田　　徹　　特別養護老人ホームみどりの郷施設長・所沢市民間高齢者福祉連絡協議会会長
内野　孝雄　　所沢市役所福祉部次長
倉部　陽司　　社会福祉法人所沢市社会福祉協議会所沢市立プロペラ施設長
武村　紗織　　埼玉県立狭山緑陽高等学校進路指導主事福祉科教諭
山足　　巌　　東所沢５丁目自治会会長